

ご協力ありがとうございました

(社)シャンティ国際ボランティア会(SVA)が実施した、昨年の台風23号・豊岡水害救援活動と新潟・中越大震災救援活動は、2005年5月末をもって終了いたしました。ここにその活動をご報告いたします。この救援活動は、皆さまからの多くのご支援により実施する事が出来ました。あらためて皆さまに心から感謝を申し上げます。



©川口町復興ボランティアセンター

台風23号・豊岡水害救援活動 新潟・中越大震災救援活動

報告

2005年7月



2004年は、“災害”の一年でした

2004年の夏以降は全国各地で風水害が頻発し、とりわけ台風23号は各地に大きな災害をもたらしました。さらに、この台風23号が兵庫県を襲った3日後には新潟県で中越大震災が発生しました。このように昨年1年間だけで、甚大な被害をもたらした自然災害は19件ののぼりました。

また、2004年12月26日にはスマトラ島沖でマグニチュード9.4の地震が発生。これに伴う巨大津波はインド洋沿岸の11ヶ国を襲い23万人もの尊い命を奪う大災害となりました。

©川口町復興ボランティアセンター



10月20日、九州、四国、そして近畿地方に台風23号が上陸。兵庫県豊岡市では、全市のほぼ半数にあたる8,200棟が床上・床下浸水するなど、1925年の北但地震以来79年ぶりの激甚災害となりました。

市内を流れる円山川の堤防が数箇所にわたって決壊、あっという間に住宅街、農地に泥水がなだれ込み、ひどいところでは大人の背丈以上にまで達しました。地震災害とは異なり、多くの場合家そのものを失うことはありませんでしたが、家屋内外に流れ込んできた大量の泥水は、家具や電化製品だけではなく、大切な思い出の品々までをも奪い去ってしまいました。

台風23号・豊岡水害救援活動

10月22日

水害ボランティアセンターの立ち上げ

被災から2日後の22日、「震災がつなぐ全国ネットワーク」と連絡・連携を取りながら、SVAは緊急救援室長とボランティア1名を現地に派遣し、市内中央部に設置が決まった水害救援ボランティアセンターの立ち上げ支援から活動を開始しました。今回の水害では、県内各地で同時にいくつも被害が発生していましたが、災害救援の経験がある人材は数える程しかいませんでした。しかし、県内の社会福祉協議会の職員などと力をあわせながら翌23日にはボランティアセンターを開設することができました。



10月23日～

差し伸べられた11,000人の手

日本各地で7月から自然災害が多発、また時を同じくして新潟・中越大震災がおきたために、豊岡での救援活動

の遅れが懸念されました。しかし、全国から駆けつけてくるボランティアの数は、1日に200名、多い日は1,000名と日に日に増え続け、3週間後のボランティアセンターの閉鎖までには市内人口の2割以上にもあたる延べ11,000人が、泥にまみれながらの活動に従事しました。

公共性の強い水害救援ボランティアセンターへのサポートを行った一方で、堤防決壊の翌日から炊き出し活動を行っていた曹洞宗兵庫県第二宗務所青年会や全国曹洞宗青年会の方たちとも連携をはかり、市内をはじめ、行政区をまたいで隣接する出石町の各集落でも泥かきや家財の運び出しなどが行なわれました。

被災地は、2週間を過ぎた頃から徐々に日常を取り戻し始め、住民から寄せられてくる要望も少なくなっていました。そのような状況の変化の中で、水害ボランティアセンターは、引き続き支援を必要とする要援護者への支援を市社会福祉協議会へと引継ぎ、11月12日をもってセンターとしての役割を終えました。



新潟・中越大震災救援活動

10月23日の夕暮れ時5時56分、新潟・中越地方でマグニチュード6.8の大地震が発生。犠牲者40名、全半壊家屋13,410世帯の被害となりました。一部の地域の人々にとっては、夏の豪雨水害の傷跡も癒えきれずにいた矢先の出来事でした。山間部では崩れ落ちた土砂が川を堰き止め、自然のダムとなって多くの家屋を飲み込みました。道路や鉄道も寸断され、幾日もの間外部から孤立した状態が続いた集落もありました。また地震は人々の住まいばかりか、大切に育ててきた錦鯉や牛たち、何代にもわたって受け継いできた棚田をも奪い去り、暮らしのあり方まで大きく変えてしまいました。



©松井伸昭

10月27日～

炊き出し支援を開始

日に日に寒さが増していく中で、被災した人たちに少しでも体を温めてもらおうと、10月27日の早朝より、全国から駆けつけたSVAの協力団体と協力しながら炊き出し支援が開始されました。長岡市、小千谷市、そして十日町の避難所10ヶ所で汁物などの補助食が提供され、約8,000名の方々に提供することができました。炊き出し、そして使い捨てカイロ・ウェットティッシュなどの配布活動は、行政や自衛隊による配給体制がほぼ整ったのを見届けて11月9日をもって終了しました。

炊き出し活動において連携・協力を行なった団体

東京災害ボランティアネットワーク、静岡県ボランティア協会、愛知・徳川院グループ、山形・宮内院グループ、曹洞宗長野県第一青年会、曹洞宗長野県第二青年会、長野・おんなじ空ネットワーク、岩手・高麗寺グループ、新潟県曹洞宗青年会、北海道・正法寺、全国曹洞宗青年会、曹洞宗埼玉県第一・第二宗務所青年会、茨城県曹洞宗青年会など



11月11日～

川口町にてボランティアセンターの運営を支援

11月11日からは川口町のボランティアセンターに緊急救援室長を派遣し、行政や社会福祉協議会とも連携しながらセンター運営への支援を始めました。魚野川と信濃川に挟まれた緩やかな山々が広がる同町ですが、被害は甚大で、半壊以上の家屋が7割も占め、インフラの復旧も他市町村と比べ大幅に遅れた被災地のひとつでした。1ヶ月を過ぎても続く強い余震、そして長期にわたる自宅を離れた避難生活から地

域の人々の疲労は限界に達し、寄り添うボランティアたちにとってもつらい日々となりました。

しかし一部地域を除いて、11月16日になってようやく避難指示が解除されたため、その後1ヶ月間は家屋内外の片付けや仮設住宅への引越しなどを中心とした住民支援を行なうことができました。

2005年1月～

復興への歩みと今後の災害に備えて

これまでの救援と復旧から、これからの町の復興を見据えた支援へと移行した時期でした。降雪期を迎えた1～3月は、雪除け・雪掻き作業が中心に行われ、また仮設住宅地や地域集会所での「ふれあいの場」づくり、中高受験生のための「学習支援」なども行なわれました。地震から半年が経過し、被災地の様相が大きく変わってきた5月末日、県外ボランティアによって支えられてきたこれまでのボランティアセンターは閉鎖され、6月1日からは町社会福祉協議会の復興支援事業として再スタートしています。今後は地域のかかわりを大切にしながら、要援護者へ個々の支援やふれあい・見守り活動を中心とした活動が行われていく予定です。

SVAは、これまで川口町のボランティアセンターへの支援をしてきま

たが、さらに各地域単位の復興への歩みを支え、また今後の災害に対して備える広域レベルでの仕組みづくりや環境づくり活動にも取り組んできました。



支えあう人々

災害が起こるたび、被災地には「困ったときはお互い様」を合言葉として大勢のボランティアが馳せ参じてくるようになりました。仕事に就いている人や学業に励んでいる若者と様々ですが、多くは特別な知識や技術を持っているわけではなく、「何かしてあげたい」「避難所に寝泊りしている人たちを助ましてあげたい」という想いで飛び込んでくる人々です。温かな汁物を振舞い泥を抜き、家財を運び出すといった作

業は、住まいや暮らしを一瞬にして奪われた被災者にとって大きな支えとなります。しかしそれ以上に重要なボランティアの役割は、心身ともに傷を負った人たちに一人の人間として寄り添い、言葉をかけ、少しのやさしさを分かち合うことにあるのだと思います。

あの未曾有の災害となった阪神淡路大震災から10年、市民の間には新たな価値観が生まれ、根付き始めています。災害は「いのち」を奪い、住まいや街を

破壊してきましたが、一方では新しい人と人との支え合いの関係を地域・世代を超えて育んできました。豊岡や中越の地で、津波の被害を被った外国の町で、今もたくさんのボランティアが活動を行っています。人々の声に耳を傾け、やさしさを分かち合えるボランティアたちとともに、SVAはこれからも歩んでいきたいと思っています。



台風23号・豊岡水害救援／新潟・中越大震災救援活動 決算見込

(2005年5月31日現在)

区分	備 考	金額(円)	構成比(%)
民間資金	一般募金・各種団体からの支援金	17,583,130	100.0
(1) 収入 合計		17,583,130	100.0
① 現地救援活動費	炊出し支援、緊急救援物資支援、ボランティアセンター支援等	7,203,179	41.0
② 募金呼びかけ・広告費	広報・報告資料等作成、配布等	3,888,809	22.1
③ その他、予備費	通信費、交通費、その他経費	420,487	2.4
(a) 直接費 小計		11,512,475	65.5
(b) 事務管理費	(a)×20%	2,302,495	13.1
(2) 支出 合計		13,814,970	78.6
(3) 収 支 差 額 (1)-(2)		3,768,160	21.4
(4) 災害救援基金へ繰り入れ		3,768,160	21.4
(5) 収 支 差 額 再 計 (3)-(4)		0	



社団法人 シャンティ国際ボランティア会(SVA)

〒160-0015 東京都新宿区大京町31
慈母会館2・3F
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
URL <http://www.sva.or.jp>
E-mail: eru@sva.or.jp